

インターバンクの声（2017年4月19日）

やはりドル円が109円台に滞空する時間は長く続かないようだ。昨日の東京時間の夕方に早くも109円を割り込んだものの、イースター休暇明けのロンドン市場なら少なくとも109円台の前半位までは戻すのではと見ていたが、結局ロンドン、ニューヨーク市場では109円台に戻すどころかドルが下げ続けてしまった。

中国が北朝鮮をうまく説得できるのではと伝わっていたものの、実は核を放棄させることは難しく、話し合いの場につかせることすら難航しているとあって、少し緩んだと思われていた地政学的リスクへの懸念がまた強くなっている。

ニューヨーク市場の序盤に発表された米住宅関連指標も弱く、米10年国債利回りが2.1%台に再び低下、さらに株価も下落とあってはドル売りの反応も止むを得ない。

メイ英首相がしばらく行わないとしていた総選挙を6月8日に前倒して実施すると表明したことで、英ポンドやユーロが対ドルで上昇したことも影響したようだ。トランプ政権内にOBを多く輩出しているゴールドマン・サックスが、トランプ大統領のドル高懸念発言などを理由にドルの買い持ち推奨を撤回した。短期的にはどうにもドル売りの材料しか見当たらない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。